

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

和庄中学校区 校番10 学校名 呉市立和庄中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** (貫)	学力の向上	思考を働かせる場をつくる	「授業中しっかり考えている」と答える生徒の割合は92%と、肯定的にとらえている回答が多い。教師側が意図的に考える場を設定し、授業を展開している結果である。 課題としては、教師の発問の質の向上させることで、「知識・技能」の習得するだけでなく、習得したことを活用して課題解決をするための「思考・判断・表現」の力をつけることが必要である。	「知識・技能」を習得し、それを活用して課題を解決するための「思考・判断・表現」を促す「問い」をしていくことが必要である。校内研修等でさらに教員の力量を高める。
		分かる授業を創る	「授業はよく分かる」と答える生徒の割合は88%と、肯定的にとらえている回答が多い。今年度からタブレットの導入により、個人思考の時間が増え、生徒全員が表現できる場ができたことで高い数値となっており、結果、授業の理解度も向上している。また、ユニバーサルデザインの充実を図る研修を行った成果が現れたものと考えている。今後も研修での内容をもとに実践をさらに積み重ね、授業改善を進めなくてはならない。	タブレットを活用しての授業が次第に定着してきている。これまでICTの不得手な教員も、積極的に使わせることで高止まりを維持していく。また、生徒一人一人の能力に応じたICT機器を効果的に活用し、学習の改善につなげる。
** (貫)	「和庄中学校区スピリット」に基づく生徒の育成	礼儀正しく節度を守る生徒を育てる	「立ち止まって丁寧に挨拶ができる」と答える生徒の割合は92.8%と肯定的にとらえている回答が多かったものの、実態とかけ離れた感はある。次に、「そうじの時間は、時間いっぱいそうじをしています」と答える生徒の割合は96%と肯定的にとらえている。先生が率先してそうじをすることで自然と意識が高まってきたと考える。	教職員が率先し、立ち止まって丁寧に挨拶する姿勢を見せることで、生徒の意識を高めたい。また、学年集会等で振り返る機会を設け、さらに改善を図っていく。
		学校や社会に貢献する生徒を育てる	「自校の生徒会活動は、学校や地域に役立っている」と答える生徒の割合は91.1%と肯定的にとらえている回答が多かった。コロナ禍の中であるものの、ボランティア募集をかけたところ多くの生徒が参加しようとする積極さがこの数値に表れている。次に、「自分の命は自分で守る」ことを意識し、実践している生徒の割合は96.6%であった。系統的に学習することで生徒への刷り込みが図られていると考える。	今後も、コロナ禍の状況でもできる生徒会活動を工夫して企画・実施していく。そして地域への意識を高めるよう指導の充実を図る。防災教育においては、生徒に対し、「自分の命は自分で守る」意識を持たせ、引き続き、教職員の防災意識の涵養を図っていく。
* (貫)	健康増進・体力の向上	メディアコントロールを推進する	「朝起きる時間と夜寝る時間は、だいたい決まっています」と答える生徒の割合は、80%と肯定的にとらえている。これは、3年生を中心にデイリーノートの取組が一定の成果を得たと考える。一方で夜遅くまで起きている実態やコロナ禍の状況でネット・ゲーム依存が増えている状況もある。	デイリーノートの取組は今後も継続しさらに充実を図る。またよりよい生活リズムの確立やスマートホン・ネットの正しい使い方について、外部の講師を招いての講話など工夫し、生徒達の意識の変容を図る。
働き方改革	自己の能力を發揮できる職場	児童生徒と向き合う時間の確保	生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は100%となった。生徒と向き合う概念を共有したことが結果に繋がった。	仕事の効率化を図るためのスケジュール管理を徹底させる。 平素からの積極的な生徒指導を進めることで問題行動を減少させていく。
		長時間勤務の削減	時間外勤務が月45時間までの教職員の割合は4月83%、5月56%、6月56%、7月83%、8月100%であった。新しく赴任してきた教職員は軒並み超過の傾向があり、また生徒指導事案があった月は特定の教員が超過することになった。教職員のさらなる意識改革が必要である。	教職員のモチベーションを大切にしながら、これまでの働き方改革に係る取組について、緩んでいるところがあれば見直し、改善や徹底を図っていく。